

## 伝説

クレバー・ハンスとは、1891年、デンマークでドイツ人のウィリアム・フォン・オステンが飼っていた馬のことで、高度な知性を持つとして有名になった。

ハンスは、質問者が問題を出すと正解の数だけ床を脚で叩くという方法で、見事に数学の問題を解いたり、和音に関する音楽の問題にも答えることができた。また1904年には、哲学者であり心理学者でもあったカール・シュトゥンプ教授を委員長とする調査委員会によって調べられ、トリックの可能性は全くないという結論も出されている。

## その後の調査

アルバート・モール博士による調査で、ハンスは飼い主であるウィリアム・フォン・オステンの動きを追って正解を出していることが指摘され、1907年には、シュテンプ教授の学生であった心理学者のオスカー・フングストによる再調査で、ハンスは自分で問題を解いているのではなく、質問者の動きを読んで正解を出しているということが判明している。

ちなみにフングストは、この「人の動きを読んでいる」という説を確かめるため、質問を出す際に意図的に微細な動きを出して、ハンスから任意の答えを引き出すことにも成功している。

やはりハンスは、自分で正解を考えていたのではなく、人の動きを読んでいたのである。

---

---

## 参考文献

- ・『人はなぜ騙されるのか』安齋育郎（朝日新聞社 1998年）
- ・『超常現象大事典』羽仁礼（成甲書房 2001年）
- ・『Clever Hans phenomenon』 - The Skeptic's Dictionary -
- ・『Clever Hans』 - Wikipedia, the free encyclopedia -
- ・『Clever Hans Effect』 - SkepticWiki -